

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称： 認定こども園 オーセルわかば幼稚園	種別：幼保連携型認定こども園	
代表者氏名：新井健師	定員（利用人数）：105名（65名） 内保育所的機能 2号認定：21名（9名） 3号認定：9名（9名）	
所在地：〒241-0801 横浜市旭区若葉台1-7-1		
TEL：045-921-2525		
ホームページ：http://www.wakabadai-1.ed.jp/		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：学校法人 中野学院		
職員数	常勤職員： 14名 非常勤職員： 25名	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育教諭：常勤7名／非常勤9名	栄養士：常勤2名
	保育士：非常勤1名	調理士：常勤1名
施設・設備の概要	（居室数）クラス室 9、調乳室 1、遊戯室 1、図書室 1	
	（設備等）冷暖房、組み立て式プール	

③理念・基本方針

思いやりの心を育てる

～自己肯定感を高め思いやりの心を育てる～

- 【刺激】 様々なよい刺激を、園舎・園庭・先生・行事などの環境を通して子どもたちに用意します。
- 【吸収】 先生・仲間・保護者・地域の人々との関わりの中で沢山の体験をし、感性（うれしい・楽しい・悲しい・くやしい・不思議など）を養います。
- 【発想】 その中で用意された物をただ受け入れるだけではなく自発的な『？（ギモン）』、『！！（ハッケン）』、『！？（アイデア）』を持てるよう、子ども目線でサポートします。
- 【表現】 ありのままの自分が受け入れられているという安心感を大切に育み、自己肯定感を高め、自由に表現出来る場を作ります。
- 縁あって出会った一人一人の子どもを尊重（そんちょう）し、社会の一員として対応します。

④施設・事業所の特徴的な取組

・同じ建物内に教育機関の幼稚園と、乳児を含む保育園が共に存在する幼保連携型認定こども園です。在園の幼児は全員制服を着用し、幼稚園バスで登園する子や、預かり保育を利用し保護者と登降園する子どもがいます。

・教育時間【9時～14時】においては、クラスのカリキュラムで活動をし、ECC、造形、作法、科学など専任講師を迎えての体験や、広い園庭、遊戯室、コーナー遊びが豊富な遊びの部屋、廊下の図書コーナーなどを友達や保育者と自由に過ごせる時間を通して、一人ひとりが持つ興味や想いを大切にしながら、クラス運営を行っています。

・教育時間が終わると、2号認定者の幼児は3～5歳の縦割り保育になり、お昼寝おやつなどを共に過ごします。また16:30になると乳児と幼児の合同保育になるため、縦割りで関わる時間が長く、兄弟のように仲睦まじい姿が見られます。

・R2年4月～インド人限定で1号認定のインターナショナルクラスを設けました。これからのグローバル社会に必要な国際交流を、成長著しい年代の子ども達が自然と経験できる場として少しずつクラスの交流をひろげています。日本の保育とインターナショナルクラスの教育のそれぞれ尊重するところは尊重し、共有できるところは共有し融合させていき、多種多様な社会に生きていく子ども達にとってかけがえのない経験の場となるよう発展させていく方針です。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年11月13日（契約日） ～ 令和3年4月27日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) のびのびとした保育を可能とするゆとりのある保育環境が整備されています

幼稚園開園時からの大規模な園として建設された建物で、各保育室、あそびの部屋、園内廊下、職員事務室、遊戯室、園庭に十分な空間が用意されています。認定保育園移行時に大規模修繕を実施し、園内を明るい雰囲気のある壁面とし、床と天井も張り替え、車いす用トイレの設置、厨房の整備、冷暖房機器の整備が行われています。

遊戯室は188平方メートルの広さと十分な高さがあり、雨の日でも子どもたちが思い切り体を動かせる空間となっています。遊戯室では、入園式、卒園式、観劇会や課外教室として体操教室やキッズチアの活動に利用されています。園庭は、子どもが走って遊べる十分な広さがあり、幼児用と乳児用の2台の滑り台や鉄棒などの大きな遊具が設置されています。

2) 打ち合わせ会を大切にし、保育の質の向上に努めています

毎日14時から14時30分まで打ち合わせ会を行い、子どもや家庭環境の変化や保護者からの意見等の共有のほか、「報・連・相」を重視し、日々の保育の振り返りを全職員で行い、組織的・継続的な取組みとしています。

職員は日案や週案についてこの時間に振り返りを行い、自分の課題やよかったと感じたことをみつけたり、他職員からの多角的な意見により新たな気づき生まれ、速やかな保育実践の改善につなげるとともに、保育の質の向上に努めています。

3)職員間のサポート体制の充実が安定した保育の提供に役立っています
今年度からパート4名をフリーとし、保育補助や教材準備など、職員がサポートを希望する仕事を、直接パート職員に依頼できる体制としました。職員は保育補助としてどの年齢のクラスでも即応できるスキルを有しています。
職員はカレンダーに依頼事項を付箋等でリスト化し、進捗状況も併記することで、いつ誰が仕事に入っても即時状況を把握できる効率的なサポート体制を構築し、時間外勤務の削減にもつながりました。

◇改善を求められる点

1)第三者委員等の設置

園では今回、初めて第三者評価の受審及び自己評価を行いました。職員を4つのグループに分け、3日間の中で各グループ毎に2～3時間をかけて、自己評価内容を討議しました。更に園長、主幹保育教諭、前副園長の3時間ずつ各2回の合議で自己評価を決定するなど、組織的に丁寧な取組を行いました。このプロセスを通じて職員間に様々な気づきが生まれ、課題の共有化を図りました。

今回を契機に保育の質の向上に向けて、今後も引き続き、組織的・継続的な自己評価に取り組むことを望みます。

2)自己評価の取組推進

園では今回、初めて第三者評価の受審及び自己評価を行いました。職員を4つのグループに分け、3日間の中で各グループ毎に2～3時間をかけて、自己評価内容を討議しました。更に園長、主幹保育教諭、前副園長の3時間ずつ各2回の合議で自己評価を決定するなど、組織的に丁寧な取組を行いました。このプロセスを通じて職員間に様々な気づきが生まれ、課題の共有化を図りました。

今回を契機に保育の質の向上に向けて、今後も引き続き、組織的・継続的な自己評価に取り組むことを望みます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

数多くの評価実績を持つ評価機関に園の実情をありのままにみて頂き、自園の良い点・改善点をあげて頂きました。

3年前より園の経営改革を推進しており、まだまだ発展の途上にあります。

今後も地域に信頼される園作りに積極的に取り組むべく、今回の評価結果から事業のあり方を考え直し、改善し続けたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり